家庭科学習指導案

1. 日時 令和〇年〇月〇日(〇) 〇時間目
2. 科目 家庭基礎
3. 場所 〇館〇階 被服教室
4. 学年・組 2年〇組 在籍〇名
5. 単元名 私たちの衣生活と“エシカル消費”
～「衣生活をつくる」と「経済生活を営む」のクロスカリキュラム～
使用教科書:家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)

5. 単元の目標

- (1) ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解し、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができる。また、衣生活と関連づけて生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解するとともに、持続可能な社会へ参画することの意義について理解する。【知識及び技能】
- (2) 被服材料、洗濯や手入れ、快適性に関する科学的な原理を活用し、被服の計画・管理に関する課題を解決する力を身に付け実践しようとするとともに、ライフスタイルを工夫したりすることで、持続可能な社会をめざして主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について考察し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現できる。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、これらを持続可能なライフスタイルと環境に関連させて、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。【学びに向かう力、人間性等】

6. 教材観

衣生活領域については、生徒が日常生活において“不便さ”を感じることで他の領域に比べて少ないと考えている。例えば、食生活領域であれば「健康」や「ダイエット」など、生徒自身や家族の困りごとを含めた学習課題の設定を行いやすいが、衣生活領域については、困りごとを含めた、生徒にとって「真性(オーセンティック)の課題」となる学習課題を設定しづらく感じている。一方で、消費生活領域において、SDGsなどの「持続可能な社会」の実現が今日的な課題として設定されているが、生徒が実感を持ち、主体的に学習に取り組みたくなる学習課題の設定が難しいと感じている。家庭基礎の科目においては、2単位という時間的制約の中で、様々な学習に取り組む必要があることを踏まえ、「科目内クロスカリキュラム」の観点でカリキュラムを検討し、実践を展開している。今回は、衣生活領域について基礎的な知識を習得した上で、消費生活領域の視点から、自分達の衣生活がどのように支えられ、世界と繋がっているかを考えることで課題解決に関する思考や判断を多角的に促進できる。

「持続可能な社会」の実現について、他教科や中学校までの学習においてもチョコレート(カカオ)やコーヒーを題材とした“食”と関連した実践が多く報告されている。同様の内容では生徒が興味を示さない可能性があり、違う切り口から授業を展開したいと考えた。

7. 生徒観

略

8. 指導観

生徒の発達段階を鑑みて、徐々に衣生活の自立(自分で好みの服を購入する、自分で手入れや加工を行う、ファッションに興味を持つなど)が見られる時期であると捉え、衣生活(ファッション)を題材に「持続可能な社会」について理解を深め、実践的態度を養う授業を展開したいと考えた。

「持続可能な社会」について、SDGs の中でも「エシカル消費」を単元の中心に据えて指導することで課題解決に関する思考や判断を多角的に促進する。

9. 単元の評価規準

知識・技能【知】	思考・判断・表現【思】	主体的に学習に取り組む態度【主】
<ul style="list-style-type: none">・ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解しているとともに、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができる。・被服材料、被服構成及び被服衛生について理解しているとともに、被服の計画・管理に必要な技能を身に付けている。・生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解しているとともに、持続可能な社会へ参画することの意義について理解している。	<ul style="list-style-type: none">・被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。・持続可能な社会をめざして主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none">・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

10. 単元の指導と評価の計画(全10時間)

次・時数	ねらいと学習活動(★はワーク)	重点	記録	・評価規準 *指導上の留意点
1次 (2h)	<p>【被服の役割を考える】</p> <p>★「(裸であった)人類が初めて身につけたものは何か?」を想像してイラストで示す。</p> <p>・衣服の起源について整理し、現在も続いていることを想起し、関連づける。</p> <p>・衣服の役割について、保健衛生の面と社会的機能の面から理解する。特に、被服気候について空気の比熱特性を理解し、暑い時や寒い時の着装に応用する。</p> <p>・自己表現に関連して、色彩について理解し、主に色相を意識した配色の工夫を提案する。</p> <p><提出課題></p> <p>★配色実習(本日の着用衣服の分析と、色相を意識した配色提案を作成する)</p>	思	◎	<p>・衣服の起源と現在も続いている衣生活を関連づけている。【思】</p> <p>ワークシート 行動観察</p> <p>・衣服の役割について、保健衛生の面と社会的機能の面から理解している。【知】</p> <p>・色彩について理解した内容を用い、自己表現につながる配色提案を作成している。【思】</p> <p>提出課題 行動観察</p> <p>*色覚特性も含めて色の見え方や捉え方に個人差があることを紹介し、他者を尊重する姿勢を促す。</p>
2次 (2h)	<p>【被服を管理する】</p> <p>★洗濯表示のクイズ(Chromebookの活用:外部サイト)</p> <p>・取り扱い表示の基本記号である「家庭洗濯」「漂白」「乾燥」「アイロン」「クリーニング」について表示の読み方とともに、それぞれの科学的原理や洗濯を行う上での注意点を理解する。</p> <p><提出課題></p> <p>講義並びにVTRを視聴し、次の3点について自分で整理してまとめる。</p> <p>出題内容:「毛繊維の衣服をアルカリ性の洗剤で洗うといけないのはなぜか」「洗濯機を用いることでなぜ汚れを落とすことができるのか」「有機溶剤を用いたドライクリーニングについて」</p>	思	◎	<p>・取り扱い表示の記号の表記ルールを理解している。【知】</p> <p>・被服の手入れについて、科学的原理や洗濯を行う上での注意点を理解している。【知】</p> <p>・被服の手入れについて、科学的原理や洗濯を行う上での注意点について、学習したことを元にして自らの考えたことを表現することができる。【思】</p> <p>提出課題</p> <p>*卒業後の進路において、ある程度の長さがある話を聞き、自らまとめる力が必要であることを伝える。</p>

<p>3次 (1h) [本時]</p>	<p>【快適な衣生活のために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣服の快適性について「水」「空気」「硬さ（風合い）」の3点で整理する。 ・被服に取り付けられる表示について、どのようなことが明記されているかを理解する。 ・組成表示に関連して、主な繊維材料の特徴と、その特徴が発現する理由を理解する。 ・サイズ表示に関連して、計測部位と表示方法を理解するとともに、誂え服や仕立て服の存在を通して、既製服のメリットとデメリットについて考える。 <p><提出課題></p> <p>1～3 次の中間まとめとして、以下の内容について文章にまとめる。</p> <p>「快適な衣生活のために、どのようなことができるか。学んだことを活用してまとめよう。」</p>	<p>思</p>	<p>◎</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・快適性に関わる被服材料の特徴や性能について、理解している。 <p>【知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイズ表示について理解している。 <p>【知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既製服のメリットとデメリットについて気づき、考えることができています。 <p>【思】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・快適な衣生活を実現するための工夫について考え、まとめることができる。 <p>【思】</p> <p style="text-align: right;">ワークシート 提出課題</p> <p>*科学的な内容や、生徒が興味を持ちにくい部分を投げかける授業であるため、生徒の実生活に関連する発問を多く取り入れて授業を展開する。</p>
-----------------------------	--	----------	----------	--

<p>4次 (5h)</p>	<p>【持続可能な衣生活をめざして、消費者として できること】</p> <p>★消費者すごろく(野中・高崎 消費者教育 38巻 2018)</p> <p>・すごろくを通して生産者・製造者・販売者・消 費者の4者の立場を疑似的に体験する。</p> <p><提出課題></p> <p>4者の立場について整理し、図解で示す。</p> <p>★映画「The true cost」(※)の冒頭から 40分までの部分を視聴</p> <p>・すごろくは4者の立場を模式化したものであ ったが、ドキュメンタリー映画を視聴すること により、現実社会で起こっている出来事に興味 を持ち、社会の現状を深く捉える。</p> <p>★消費生活の問題点についてのKJ法を用い た整理</p> <p>・すごろく、映画、資料などから浮かび上がる 「消費生活に関する問題点」を整理する。</p> <p>・KJ法を用いて整理した模造紙を用いてプレ ゼンテーションを行う。</p> <p><提出課題></p> <p>★エシカル消費についてのレポート(パフォー マンス課題)</p> <p>・エシカル消費を推進する事例を1つ選び、そ の内容を調査して紹介するレポートを作成す る。また、その事例を普及させる上で困難とな る原因について考察する。</p> <p>(※) バングラディッシュの「ラナ・プラザ」崩落 事故をきっかけにして、ファッション業界の現 実取材したドキュメンタリー映画</p>	<p>思 ・ 主</p>	<p>・すごろくを通して生産者・製造者・ 販売者・消費者の4者の立場を 疑似的に体験することにより、それ ぞれの関わりを構造化して捉える ことができる。【思】</p> <p>提出課題 行動観察</p> <p>・すごろく、映画、資料などから浮か び上がる消費生活に関する問題 点をKJ法の手法を用いて整理す ることができる。【思】</p> <p>KJ法の成果物(模造紙) プレゼンテーション 行動観察</p> <p>*KJ法について、付箋紙を用いた 意見の分類だけにとどまらず、グ ループ同士の関係性を明示でき るように指導する。</p> <p>・エシカル消費について、事例を調 査し、その事例を普及させる上で 困難となる原因について考察す ることによって、エシカル消費が直 面している問題点を分析できてい る。【思】 提出課題</p> <p>・衣生活と健康や持続可能なライフ スタイルと環境との関りについて、 課題の解決に主体的に取り組んだ り、振り返って改善したりして、地 域社会に参画しようとするとも に、自分や家庭、地域の生活の充 実向上を図るために実践しようと している。【主】 ワークシート</p>
--------------------	--	----------------------	--

(「知識・技能」の観点については定期考査においても、総合的評価を行う。)

11. 本時の展開（第3次 1時間/全10時間）※1コマ45分

(1) 本時の目標

- ・衣服の快適性や組成表示、繊維材料の特徴や発現する理由について理解する。サイズ表示の計測部位と表示方法や用語について理解する。
- ・既製の課題について考える。
- ・快適な衣生活の要素について1～3次で理解したことを基に、工夫や改善に向けた考えをまとめ、表現する。

(2) 本時の評価規準

- ・衣服の快適性は「水」「空気」「硬さ」から影響されること、組成表示や繊維材料の特徴から発現する理由を理解している。サイズ表示の計測部位と表示方法や用語について理解している。
- ・既製の課題について、誂え服や仕立て服の存在や既製のデメリットから、考えることができています。
- ・快適な衣生活の要素について1～3次で理解したことを整理し、根拠に基づいて工夫や改善に向けた考えをまとめ、表現している。

◎:総括的評価(記録に残す評価)

時間	学習活動（〔T〕は教員による発問）	指導上の留意点	評価規準・評価方法
導入 (3)	① 今、着用している衣服の快適性は？ 〔T〕「今日着ている衣服は、『快適性』の点から成功している？失敗している？」→班内で意見交流	・班内での意見交流の間にワークシートの配付を行う。 行動観察	
展開 (5)	② 快適な衣生活に必要な性質 〔T〕「吸水性と吸湿性の違いを説明できますか？」→班内で意見交流 ・衣服の快適性について考え、「水」「空気」「硬さ」の3点で理解する。	・生徒にとっては当然のこのように感じられるが、“水”と“湿”は区別されずに研究が進められてきた歴史を紹介する。 行動観察	衣服の快適性について「水」「空気」「硬さ」から影響されることを理解している。 ワークシート
(2)	③ 被服と表示 〔T〕「皆さんの衣服についている表示を見てみましょう」→各自確認する ・衣服の表示が主に左側についていることを確認する。	・身近なテーマであることを感じてもらうために、自分の着用している衣服の表示をしっかりと見ってもらうように促す。	
(12)	④ 組成表示 ～繊維材料～ 〔T〕「表示の中で、どのような繊維が用いられているか確認してください」 〔T〕「何かの繊維が1つだけ、100%で用いられている人」→挙手 〔T〕「2つ以上の繊維が用いられている人」→挙手 ・混用について確認する。 ・被服に用いられる主な繊維材料の分類を確認する。	・様々な繊維材料を、目的や用途によって組み合わせて用いていることを伝える。	組成表示、繊維材料の特徴から発現する理由を理解している。

	<p>[T]「綿繊維はなぜ水をよく吸うか説明してみよう」→班内で意見交流</p> <ul style="list-style-type: none"> 綿繊維が水を吸う理由を「材質(化学的特性)」「構造(物理的特性)」の2つの面から整理して理解する。 <p>[T]「絹繊維はどのようにして得られるだろうか?」→班内で意見交流</p> <ul style="list-style-type: none"> 絹繊維の製造方法(養蚕・精練)や光沢が発現する理由を理解する。 化学繊維が開発された歴史と、製造方法の概要を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 雑巾を用意し、水を吸わせる様子を演示する。 行動観察 ワークシートの余白を多めにとっておき、そこにメモをとるよう促す。 綿(コットンボール)と繭は実物を用意して見せる。 行動観察 物性だけでなく、シルクロードに関連して歴史的背景にも触れる。 	
(2)	<p>⑤ 性能表示</p> <ul style="list-style-type: none"> 性能表示にどのようなものがあるか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 進行の都合上、この内容は確認程度に留める。 	
(12)	<p>⑥ サイズ表示</p> <p>[T]「子ども服はどうやってサイズ表示をしているか知って(覚えて)いますか?」</p> <ul style="list-style-type: none"> 成人男性、成人女性のサイズ表記について理解する。 <p>[T]「今までに『被服のサイズ』で困ったことはありませんか?」</p> <p>→班内で意見交流、ワークシート記入</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活で、衣生活のサイズ課題について気づく。 既製服と誂え服、仕立て服を比較し、既製服が一般的になっているが、デメリットもあることを理解する。また、通販などの普及により、サイズに関する消費者トラブルが多くなっていることも理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 答えやすい難易度の発問で生徒の興味を引き出す。 生徒が身近に接するサイズ表示は SML 表記であるが、ここでは、将来、生徒が出会う可能性がある紳士服、婦人服のサイズ表記を取り上げる。馴染みがないものなので、生徒の反応を注視しながら授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> サイズ表示の計測部位と表示方法について理解している。 様々なサイズの表示方法や用語について理解している。 既製服の課題について考えることができています。【思】 ◎ワークシート
(2)	<p>⑦ その他の表示</p> <ul style="list-style-type: none"> 「取り扱い絵表示」(既習)と「原産国表示」「表示者の表示」が表示されることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 4次で原産国に関連してエシカル消費について展開するので、予告を兼ねた内容としている。 	
まとめ (7)	<p>⑧ まとめと提出課題の記入</p> <ul style="list-style-type: none"> 1~3次の間まとめとして、以下の内 	<ul style="list-style-type: none"> ここまで学んだことの概略をスクリーンに投影して振り返 	<p>快適な衣生活の要素について1~3次で理</p>

	<p>容について文章にまとめる。 「快適な衣生活のために、どのようなことができるか。学んだことを活用してまとめよう。」</p>	<p>理、生徒の思考を促す。</p>	<p>解したことを整理し、根拠に基づいて工夫や改善に向けた考えをまとめ、表現している。 【思】 ◎提出課題</p>
--	--	--------------------	--